

平成25年度 第12回富里市教育委員会定例会議会議録

富里市教育委員会

- 1 期 日 平成26年2月28日（金）
開会 午後2時
閉会 午後4時25分
- 2 場 所 本庁舎3階第3会議室
- 3 出席委員 委 員 長 武 井 勝 彦
委員長職務代理者 佐々木 浩 二
委 員 森 田 惠 子
委 員 會 田 直 子
教 育 長 國 本 與 一
- 4 出席職員 教 育 次 長 小 野 祐 一 郎
教 育 総 務 課 長 高 須 利 幸
学 校 教 育 課 長 滝 口 次 郎
学 校 給 食 中 心 所 長 大 木 正 吾
生 涯 学 習 課 長 榊 原 孝
図 書 館 長 根 本 優
- 5 事務局職員 教育総務課主査補 原 口 めぐみ

平成26年3月25日

署 名 人

署 名 人

会議録作成人

1 委員長開会宣言

武井委員長 平成25年度第12回富里市教育委員会定例会議を開会する。

2 前回会議録の承認

平成25年度第11回定例会議会議録承認

(署名人：國本教育長，森田委員)

3 教育長報告

- ・ 2月8日，9日は大雪になったが，学校施設に特に被害はなかった。一部の学校で登校を遅らせる措置をとったが，教育活動に大きな支障はなかった。
- ・ 1月29日，教育委員研修会が行われた。
- ・ 2月2日の午前中に富里市駅伝大会が行われ，午後「とみさとまちづくりふれあいミーティング」が行われた。ふれあいミーティングに参加された市民の方から教育関係については，公民館講座に期待することや旧岩崎家末廣別邸の公開に関する要望などがあった。
- ・ 2月4日，印教連教育功労者表彰式が行われ，富里中学校長，根木名小学校長が受賞された。
- ・ 2月8日から降雪となり，暴風雨雪警報が発令されたため，中央公民館の夜間の部を臨時休館としたので委員の皆さまには御了解いただきたい。
- ・ 2月14日，教育長，校長第2次面接を行い，教職員人事異動について，北総教育事務所と確認作業を行った。人事異動事務については引き続き行う。
- ・ 2月18日の定例記者会見で富里市ジョイントスクール構想を発表した。
- ・ 2月20日，第5回学校適正配置検討委員会が開かれ，答申をいただいた。今後の定例会議において答申を尊重しつつ，教育委員会の見解をまとめていくことになるのでよろしくお願いしたい。なお，議会への説明は，3月11日と18日を予定している。
- ・ 2月21日に3月定例議会が開会し，3月18日が最終日となる。
- ・ 2月23日，柔・剣道大会が開催された。

4 教育委員報告

委員 1月29日，第2回教育委員研修会に参加した。テーマは地域を支える新しい学校像であり，東京国立近代美術館加茂川幸夫館長による講演であった。教育基本法第13条をもとに，地域の実情に応じ，学校支援体制の構築，地域が積極的にかかわる学校運営，コミュニティスクールについての話があった。子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で，子どもたちを健やかに育むために，学校，家庭，地域住民がそれぞれの役割を自覚し，地域全体で教育に取り組む体制を作っていく必要があると感じた。

2月22日、栄町の教育講演会に参加した。会津藩校「日新館」宗像精館長による、いま、なぜ「ならぬことはならぬ」なのかという演題の講演であった。義を貫いた会津魂の支柱である日新館教育について、10の掟をもとに、ならぬことはならぬと毅然とした態度で子どもと向き合っていくことが大切だと熱く語っていた。今は「あいづっこ宣言」を策定し、「人をいたわります、ありがとうございますを言います、がまんをします、卑怯なふるまいをしません、会津を誇り年上を敬います、夢に向かってがんばります、やってはならぬ、やらねばならぬ、ならぬことはならぬものです」ということを示しているとの話であった。

同じ方向に向かって地域で子どもたちを育てていかなければならないと感じた。

委員長 1月29日の教育委員研修会に参加した。近年、学校にかかわる制度改正がいろいろと行われているが、それらに共通する背景は、学校を取り巻く変化に学校や教師が対応できないことに対する不審があるということである。学校の教師が自分の置かれている立場をよく理解できず、昔のように学校の全てに優れていて、教育に関することはなんでもできていた時代とは違うことを今の先生方は認識しないといけない。

できないことをできないといえない、認めない体質を変える必要がある。それには、学校の取組だけでは無理で、教育委員会、地域、家庭と連携、協力し、学校評価のアップ、質の保障をしていかなければならない。地域の実態に即した支援体制の構築が必要であり、その対応のためには、放課後子ども教室、学校支援地域本部、コミュニティスクールなどをどのように実施されているか、どのように運営したらよいか、細かく説明されていた。この講演を聞いて、本市も同様な取組が行われており、課題もあるがよい環境が整っていると思った。必要に応じてこの講演内容が生かされるときもあるのではないかと思った。

5 議案

武井委員長 議案第1号及び議案第2号について、提案者である國本教育長から提案理由の説明を求める。

國本教育長 議案に対する提案理由について説明をする。

議案第1号 富里市学校給食センターの管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について、本案は、消費税法の改正等に伴い、所要の改正を行う必要があるため、富里市教育委員会行政組織規則第8条第2号の規定により議決を求める。

次に議案第2号 富里市立図書館の休館日の変更について、富里市立図書館の管理及び運営に関する規則第4条ただし書の規定により、休館日を変更したいので議決を求める。

よろしくご審議の上可決されるようお願いする。

武井委員長 議案は個別に審議する。

(1) 議案第1号 富里市学校給食センターの管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

学校給食センター所長 本案は、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律」による消費税法の改正により、消費税率及び地方消費税率を引き上げることに伴い、当該規則の給食費の月額消費税に関する部分について一部を改正するものである。また、あわせて用語の整理について改正を行う。

<質疑等>

武井委員長 消費税による改正だが給食費の値上げはないということか。

学校給食センター所長 消費税が5パーセントから8パーセントに上がるが、現在のところ給食費の値上げは考えていない。理由は、新しい炊飯施設は、小中学校を同時に御飯給食とする能力があるため、比率としてパンを1に対し、御飯を4とすることを考えており、8パーセントの段階では、値上げすることなく対応できると判断している。

武井委員長 実質的に給食費の値下げということで、いろいろと経費等が大変であると思うがよろしく願います。

<採決>

議案第1号は、賛成全員により原案のとおり可決した。

(2) 議案第2号 富里市立図書館の休館日の変更について

図書館長 議案第2号、富里市立図書館の休館日の変更については、平成26年4月1日から平成27年3月1日までの期間についての議決を求めるものである。

富里市立図書館の管理及び運営に関する規則第4条第1号中の第2条は、振替休日が月曜日になった場合に振替休館日を他に設けるため削除する。同条第2号は休日を休館日から外すため削除する。同条第3

号中の変更は、年始の休館日を1月1日から1月4日までとするものである。以上のとおり、来年度から運用したいため議案として提出したものである。

<採決>

議案第2号は、賛成全員により原案のとおり可決した。

6 協議事項

(1) 平成26年度とみさと教育プランの策定について（教育総務課）

教育総務課長 平成26年度4月当初から使用する教育プランについて、まとまったので御協議いただく。

教育長 とみさと教育プランの全体構想図を御覧いただきたい。基本的な変更点はないが、家庭教育、学校教育、社会教育の役割として、富里市教育委員会の考え方をスローガンとして明示した。それぞれの教育に取り組んでいくことがよいと考て、富里市は「家庭で育て、学校で伸ばし、社会で磨く教育」を推進するというスローガンを加えた。

家庭教育では、親はきちんと子どもを育てること、学校教育では、子どもの資質や個性を最大限伸ばしていくこと、社会教育においては、子どもだけではなく成人も自ら磨いていくことを基本的な考え方として明示し、教育行政においては、それぞれの担当する分野の充実に取り組み、学校は学校で取り組み、家庭は家庭で取り組んでいくことを加えた。

武井委員長 主な変更点、重要な事項等について、各課からの説明をお願いする。

学校教育課長 2頁目、富里市は学力向上と合わせて体力向上も教育課題となっているため、来年度から富里市小中学校駅伝競走大会を実施し、市内児童・生徒の体力向上を図ることを加えた。また、平成26年度から3年間、千葉県教育委員会から指定を受けた富里第一小学校をモデル校として体育科指導の充実と体力づくりを進めていくことを加えた。

4頁目、学力向上にかかわる部分で、富里南中学校、富里南小学校で千葉県の学力向上検証事業を継続して取り組むことになっている。また、毎年度、学力向上交流会として印旛郡内2校で開催する。来年度は、七栄小学校で学力向上の取組について発表する。

6頁目、英語教育の充実について、文部科学省は秋に向けて小学校外国語活動を英語科とする検討をしている。来年度は、この動きを注視しながら小学校英語科に向けて、ALT（外国語指導助手）、JET（日

本人英語指導補助員)をどのように活用し、配置するのが望ましいか検討していく。あわせて今年度に引き続き、コンコルディア大学から年間2回の学生を受け入れる。

9頁目、特別教育の推進の中で、小中学校の円滑な接続のため、支援が必要な子どもたちの情報を小学校から中学校に伝え、支援が途切れないようにする個別の意向支援シートを今年度に作成した。来年度、11頁目の富里市学校専門指導員の派遣において、その活用を図っていく。

13頁目、不登校やいじめ等に対応する支援体制の確立で、平成26年度は、適応指導教室と各学校との連携を一層密にし、不登校児童・生徒や保護者への働きかけをさらに充実していく、という文章について、今までは、ふれあい教室適応専門指導員2名の配置であったが、そこに、いじめ対応の学校専門指導員、教育相談対応の学校専門指導員をあわせて配置し、センター的な取組ができるように考えている。さらに、学校ごとに「学校いじめ防止基本方針」を策定し、家庭・地域と連携して、いじめ防止に取り組んでいくという文章では、今後、提出された基本方針を精査し、ホームページ等で保護者、地域の方に各校がどのような形でいじめに取り組むかについて宣言をしたうえで来年度に取り組んでいく。

14頁目、学校専門指導員を活用し、特に小学校において教育相談を進めていく。18頁目、開かれた学校づくりの中で、ジョイントスクール構想の推進を行う。19頁目、学校保健・給食の充実と食育の推進における安全な食材選びと衛生管理の徹底で、食物アレルギーマニュアルに基づいて学校給食における食物アレルギー対応を図っていく。

学校給食センター所長 19頁目、食に関する指導の推進で、現在の状況に即した表現とした。給食残菜問題への取組は、数値の変更である。

教育総務課長 22頁目、安全・安心な教育環境の整備の中の学校施設耐震化の推進では、平成25年夏に富里南小学校第一校舎の耐震補強工事が完了した。これにより、小学校では95.2%、幼稚園と中学校では100%の耐震化工事が完了した。平成26年度は、洗心小学校校舎の耐震補強工事を行い、小学校も100%の完了となる予定。

平成25年度には、日吉台小学校体育館の天井等の撤去を行った。

平成26年度には富里第一小学校と根木名小学校屋内運動場の非構造部材の耐震化を図るための安全対策工事を行う。

生涯学習課長 23頁から28頁までが、社会教育または公民館に関するもので、数字については、年度、実績等の更新であり、大きな変更はない。

図書館長 30頁目、ブックトリップ事業については、いままでは人数を目標にしてきたが、平成26年度は、児童生徒数の20%以上を達成目標とした。

生涯学習課長 33頁目、埋蔵文化財の保護の中で、これまでは市内各所の遺跡の範囲を示した紙ベースを用いて手作業で検索していたが、今年度、緊急雇用創出事業により電子化したデータを基にパソコンを使って検索できる電子遺跡地図システムを完成する。平成26年度からこの電子システムを活用する。34頁目、文化財を活用した学習支援で、成田国際空港振興協会の助成金を得て、旧岩崎家末廣別邸学習ビデオとして20分ほどの内容でDVD40枚を作成した。公開に向けての整備作業中であるが公開の声が大きくなっており、受け入れは部分的であるが、例えば希望される方への貸出し、各学校等の学習を考えている。

スポーツ施策について特に変更はない。

<質疑等>

委員 体力向上に向けた取組として、小中学校駅伝競走大会を実施することについては、クラス対抗で行うと聞いており、相当数の子どもたちが集まると思う。輸送手段や経費等についての予算措置はなされているか。

学校教育課長 小学校は学級対抗、中学校は部活動単位で参加をしていただくことについて、大枠は校長会で了承を得て、体育主任の先生が細かい内容を詰めている。結論から言うと予算化には至っていないが、精査をして必要最小限の予算補正を考えている。

委員 富里市の小学校の場合、規模の大小がある。何人くらいを1チームとするのかわからないが、小規模校は選手不足が生じないのか、他学年から選手が入ることについて子どもたちの意欲が半減しないかという心配について考慮しているか。

学校教育課長 1チーム、男女それぞれ3名ずつ、6区間で実施することについて検討をしている。小規模校では、選手が単独学年でまかなえるかについて危惧があった。校長先生方と相談をする中で、複数学年でチーム編成をするやり方、複数校でチームを編成するやり方、これらについてどういうやり方がよいのか。来年度について、さらにその翌年度についてどのように実施するか、見通しをもって検討しているところである。何より子どもたちの意欲が高まること、選手になる子だけでなく、その他の学級の子どもたちの意欲が高まるよう検討している。実施する場所については、中央公園を考えている。

教育長 今まで体力向上につながる取組としては、小学校のミニバスケッ

トボール教室が行われてきた。よい点はたくさんあるが、一部の限られた選手のための大会であり、全体の体力向上につながっているかどうかという反省があった。平成26年度からはジョイントスクール構想で3つの学園で学校運営を行っていくという中で、目に見える形で新しい取組がないものかを考えたときに、同じ大会に小中学生が参加することがなかったため、同じ学園の子ども同士が応援しあう、小学生が中学生を応援する、中学生が小学生を応援する。新しい学園体制でそういった行事が必要であろうと考え、取組をしようとしている。第1回の大会から問題点のないよう進めていく。時期としては12月上旬の実施を予定する。

委員 体力向上という面で駅伝の実施は素晴らしい企画であると思うが、1月にスポーツ少年団の駅伝があり、12月の小中学校駅伝競走大会と重なっていることが気になる。小中学校駅伝競走大会は、各学級での実施のため選手層に広がりがあるのでいいかなとも思うが。

千葉県主催『いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」』8つの運動種目への参加について、富里市の参加状況はどうなっているか。

学校教育課長 学校ごとの取組ではあるが積極的に参加している学校が多くあり、県のランキングに載る学校もある。

委員 体力向上に向けた取組という意味では、年間を通してできる競技を週に1回でもよいからやったほうがよいと思う。同じ目標に向けて年間を通してやったほうがよいのではないかと思う。駅伝が悪いということではなく、その時期に集中して練習するのは、体力の向上にはつながるが、年間を通してやっていける種目を考えるのも手段だと思うが、その辺はどのような考えか。

学校教育課長 まず、駅伝競走自体を考えたときに、大会を12月上旬に設定した理由は、各学校で11月中からいわゆる耐寒マラソンをやっている。その集大成として今までは学校ごとの納会があった。さらにその先に学級対抗としての大会を設定することで練習へ意欲的に取組ができると考える。また、毎時間の正課授業の準備運動として必ず持久走という取組があるので、そういう意味では年間を通して意識をして取り組みやすい種目であろうと考えている。ゆうゆうスポーツランキング等への取組も楽しんでできる種目が多くあり、効果的であろうが、全校で年間を通して取り組むことになった場合には、運動の基礎である走るということが最もふさわしいのではないかと考えている。

教育長 年間を通した取組について、小学校5、6年生は、5月から6月にかけて小学校の陸上競技大会、郡大会に向けての練習がある。来年度は、12月に学級対抗の駅伝大会という行事を持つことで、通年、体力向上の取組につながる環境が整うということになるということで御理解いただきたい。

武井委員長 ジョイントスクール構想の推進で、小中学校連携と学校間との交流の推進について、富里北中学校と日吉台小学校は交流がよくあると思うが、中央学園については今までの交流等について、特徴や変わったところがあるのか。

学校教育課長 ジョイントスクールそれぞれの学園の来年度以降の構想については、教頭先生を中心に検討していただいている。北学園については、従来から1小学校1中学校で深く連携が図れているため、先行した取組がなされている。南学園については、富里南中学校を中心に大規模校の富里南小学校があつて、小規模校の洗心小学校や浩養小学校があり、連携について難しい面があるかと事前に考えていたが、大変、積極的に取り組んでおり、来年度の計画を示していただいている。中央学園は、小学校が多いこと、地域性が異なることで、計画作りが難しいと感じているところである。そういった中でも、例えば、中学校の体験入学を従来は卒業式後であったものをもっと早い段階で小学校6年生が中学校の生活を知る。逆に中学校の先生方が6年生の状況を観察するという取組について検討しているところである。北学園、南学園、中央学園とそれぞれの状況に応じて、いい形で進んでいると感じている。それぞれに置かれた環境状況に応じた内容を工夫していただく。

武井委員長 浩養幼稚園、浩養小学校など幼少の連携についてはどうなるのか。

学校教育課長 現在、幼稚園、小学校、中学校という形での連携については、直接ジョイントスクール構想に入っていないが、幼稚園と小学校の接続については従来からお願いしており、連絡会などを通して連携を図っていくことについて進めていただく。その連携がジョイントスクール構想の中に幼稚園と小学校の連携が加わるという考え方である。直接、幼稚園の先生がジョイントスクールの構想作りに加わってはいない。

委員 具体的には、来年度、どのようなことを目指しているのか。

学校教育課長 それぞれ学園の状況によって、進み具合や進む方向が違ってくる。北学園は、交換授業というところまで踏み込んでいくという構想がある。南学園でいえば、例えば食物アレルギーの研修を4月に行うが、4校の先生方が集まって合同で研修会を行うなどの話が進んでいる。

現在は例示として話をしているが、具体的に各学園の計画が立った段階で示すことができる。

武井委員長 給食残菜問題の取組は、何年も前から研究検討されて、子どもたちの食べ残しがないよう食育、メニューの工夫などを行っていることを十分に知っている。とみさと教育プランでは「また、現在進行中の学校給食センター施設統合事業においても、残菜の問題について調査・研究していく。」が削除されているが、これからも残菜は出てくるものなので文章を残しておいたほうがよいと思うが。

学校給食センター所長 残菜については、脱水をかけて、量を減らして処分している。施設の面から残菜処理方法として、今の処分方法で行うため、文章を消したものである。

残菜の問題については、「給食の残菜率の低下を目指す。」という文書で表現されているものとして削除するものである。

委員 放課後子ども教室の推進について、平成25年度は浩養小学校、洗心小学校、富里第一小学校の3校で実施されていた。平成26年度は、他の小学校に広まるよう実施を呼びかけていくとあるが、少し規模の大きい小学校でも実施が可能であるのか心配である。地域の中で子どもたちを育てていくことを考えると、他の小学校にも広がっていくことが大切だと考えるのだが、実際に実施していくうえで問題はないか。

生涯学習課長 放課後子ども教室の事業と「とみさとザ・ワールド・キッズ」は、同じ内容の事業として捉えている。放課後子ども教室は、浩養小学校、洗心小学校、富里第一小学校の3校で実施し、とみさとザ・ワールド・キッズでは、日吉台小学校2クラス、富里小学校と富里南小学校が合同で各2クラスの計4クラスを実施している。

根木名小学校と七栄小学校は、放課後子ども教室、とみさとザ・ワールド・キッズのいずれも未実施である。地域の指導者の確保などが課題で実現に至っていないが、いずれかの事業を行えるようにしていきたい。

委員 外国語指導助手（ALT）の配置は、平成25年度は富里小学校、日吉台小学校、七栄小学校に配置するとあるが、他校について配置することはないのか。

学校教育課長 ALTは、基本として各中学校に配置をしたうえで、週に1回、3つの小学校に定期的に行っており、他の小学校への定期的な配置は行わないものと考えている。

委員 英語を学習するうえで不定期でもよいのでALTを派遣してはどうか。

学校教育課長 英会話の日など年に何回か小学校に配置するほか、コンコ

ルディア大学の学生を受け入れ、各小学校に派遣をしている。

教育長 補足説明をする。基本的に小学校には、日本人で英語の指導ができる方を配置しているが、直接、外国人から母国語である英語にふれあうことは大事であると考え、ALTやコンコルディア大学生を活用している。

大学生を受け入れる経緯として、毎年、中学生が国際交流協会の主催でウィスコンシン州にホームステイに行っており、ホームステイ終了後もおつきあいがある。お世話になっている恩返しとしてウィスコンシン州だけの大学ではないが、学生を受け入れて、日本の学校で教育実習をしていただく。今後もギブアンドテイクの関係が続くものとする。

平成26年度も昨年度と同様に2人の学生を受け入れる予定であり、小学校の外国語活動に大学生を活用していきたい。

武井委員長 質疑等はあるか。(特になし)

教育長 とみさと教育プランの参考資料の「とみさと教育の指導指針」について説明する。とみさと教育プランは、教育行政をこのように進めていくという内容であり、これを受けて学校や園ではどのようにしたらよいかというものが示されていなかったため、「とみさと教育の指導指針」で示した。この指針では「学校・園は子どもの学び舎です。富里市では生命や人権が尊重された安全・安心に学べる学校・園づくりに努めます。」と学校・園の使命を示した。使命を果たすためには、一人の先生の力では限界があるのでチームで考え、判断して指導にあたること。伸びて輝く子を育てるためには、学力、心、体をバランスよく育むプロジェクトをそれぞれの学校で考えること、学校教育の充実方策、幼少中連携教育の推進、ジョイントスクールの推進などを示している。

また、とみさと教育の指導指針の解説書を作成した。

学校・園の使命としては、いじめのない教育環境づくりを大事にすること。チーム力を高めるために一人ひとりの使命と責任の自覚が大切であること。親に対して子どもに対して、誠実に向き合うことが大事であること。伸びて輝く子を育てるには、子どもをこのように育てたいという信念を持つこと。学校教育の充実方策については、先生方はそれぞれ分掌をもって進めており、工夫と改善に努めること。指導にあたっては充実するように努力すること。

従来の中連携教育の考え方をより発展させて教育課程上の小中学校の接続を重視した学校運営を目指す考え方であるジョイントスクール構想を加え、引き続き幼保小中連携の充実も図っていく。

NBプロジェクト5・プラスαについては、NoBadget、つま

り、予算がなくてもできる事業があるのではないかと考え、知育、徳育、体育の中で5つほど例示をした。5つだけでなく各小中学校でプラスαを創意工夫で行っていただく。特にゴシックで示された箇所は、大事に心に留めて日々の指導にあたってほしい。そのほか資料としては、ジョイントスクール構想を添付する。

武井委員長 先生方にはこの指導指針を配布し、周知を思うが、「家庭で育て、学校で伸ばし、社会で磨く教育」の中の、家庭についての周知はどうするのか。

教育長 近い将来、道徳が教科化される方向にある。学校だけで道徳教育を行うことが子どもたちの道徳心を育てるということには、なかなかつながらないと思う。世の中の価値観は多様化しているが、共通して富里の家庭では、このように指導していこうという基盤があって道徳教育が行われると、よりよいのではないかと考える。

教育委員研修の講演では、あいづっこ宣言をして取り組んだことで、犯罪が減少しているという話もあり、富里らしい子育て宣言のようなものがあって道徳教育があるとよいと考えるので、家庭教育の関係者、市民の皆さまと考えると、どの家庭でも子育てにあたっていただけるとよいと考える。

武井委員長 何か質疑はあるか。なければ以上をもって、とみさと教育プランについての協議を終了とする。

(2) 富里市就学援助費支給規則の一部を改正する規則の制定について（学校教育課）

学校教育課長 改正の主旨は、これまで市独自で支給規則を定めて運用してきたが、国庫補助があるため支給対象の経費、支給額を国庫補助に揃える必要があると考え、近隣市町の状況も考慮し、改正するものである。内容としては、要保護児童生徒について医療費を加えた。これまでは、生活保護法の医療扶助で対応していたが、学校保健安全法に規定されている疾病、例えばむし歯など健康診断に基づいて治療勧告がでて治療をすることは、就学援助の中での医療費対応が可能であるため改正するものである。支給額別表の改正は、国庫補助の支給項目、基準額に合わせるものである。国庫補助の基準額が毎年変わるため、額が変わった場合、その都度改正を行わなくても対応できるように改正する。

武井委員長 以上で富里市就学援助費支給規則の一部を改正する規則の制定に

についての協議を終了とする。

7 報告事項

(1) 学校適正配置検討委員会の答申について

教育総務課長 2月20日に第5回富里市学校適正配置検討委員会が開催され、答申が提出された。(答申を朗読する。)

武井委員長 5回の委員会が開かれ、答申をいただいた。今後、教育委員、教育委員会がよりよい方向にもっていけるように皆さんと考えていきたいと思う。ここまでで質疑等はあるか。(特になし)

では、尋ねるが答申の中に洗心小学校という名称がでてきたが、名前を入れる必要があったのか。いままで職員の人たちが二区の地域の人たちと話し合っ、心が通ってきていい状態であると思うが、名称を出すことはどういうものであるか。

教育長 答申案を検討する中で具体的な名称を入れるべきかどうかという議論があったが、結論としては、学校が特定されるため、きちんと入れたほうがよいだろうということになった。また、統合先を富里南小学校と明記されていることについては、歴史的に洗心小学校は富里南小学校から分離、独立した経緯があること、地理的に地続きであることから統合先は富里南小学校が妥当であるという結論となった。これから教育委員会としてどのような結論を出すかということについては、答申を尊重しつつ、決めていくことになるので委員の皆さまのそれぞれの考えを出していただくことになる。

武井委員長 委員の皆さまには、答申をよく読んでいただき、今後、適正な配置等について協議を進めていく。

教育総務課長 開催中の3月議会において、11日に開催される文教厚生常任委員会、18日最終日に開催される議員全員を対象とする全員協議会で答申を報告する。御了承いただきたい。

(2) 月例報告(各課等)

教育総務課

- ・2月20日に第5回学校適正配置検討委員会が開催され、答申をいただいた。
- ・2月21日に3月議会が始まり、3月5日は予算審査特別委員会、3月11日は文教厚生常任委員会を予定する。
- ・3月25日に教育委員会定例会議を予定する。

学校教育課

- ・委員の皆さまには、各小中学校、幼稚園の卒業式への出席をお願いします。
- ・2月3日に校長会を開催した。1月以降、インフルエンザで市内9学級、感染性胃腸炎で2学級が学級閉鎖をしている。
- ・南中学校1年生でインフルエンザの感染が拡大し、早帰りという状況である。
- ・給食費徴収状況は、1月31日現在で昨年度同期を若干上回る徴収率であるので学校に協力を求めて進めている。

武井委員長　このところ降雪が多いが、雪のときの子どもたちの状況はどうであったか。

学校教育課長　校長先生方が横の連携で早く決断をしたため、登下校とも混乱はなかった。

学校給食センター

- ・3月20日に給食終了、学校給食センター運営委員会を開催する。

生涯学習課

- ・2月1日、英語ふれあいDayの3回目が行われ、今年度の事業を終了した。中央公民館で子どもたち30名が集まり、ゲームを中心とした活動であった。
- ・2月18日、第3回の文化財審議会を開き、今年度の事業の進捗状況の報告と翌年度事業の予定を説明した。
- ・2月20日、創年セミナーは16回目の最終回で閉講式を兼ねて行った。定員40名に対し、修了者は34名であった。アンケートの回収は23名であり、20名が相対的によかったとの感想であった。個々の事業について、参加者が興味を示したメニューでは、よいなど千差万別の意見であった。とみさとふれあいミーティングで、この講座について御意見をいただいた募集の件について、先着40名で募集してきたことに対し、定員の枠の増、抽選を含めて初回受講の方を優先とするなどの改善方法を考えていきたい。
- ・2月2日、第32回富里市駅伝大会が開催され、38チーム177名が参加し、事故なく無事に終了した。
- ・2月19日、2013 とみさとスポーツ健康フェスタ検討会議が行われ、反省会、検証を行い、さまざまな御意見、改善案をいただく。次回の開催にいかしていく。
- ・2月23日、第34回富里市柔・剣道大会が開催され、柔道24チーム

146人、剣道63チーム505人が参加された。

図書館

- ・2月25日から3月1日まで蔵書点検を行い、約19万点を完了。報道で話題となったアンネフランクリン関係の資料は計21点があり、内容を確認したところ、いたずらはされていない。資料については職員の目が届くところで確認をしながら細心の注意を払って運営していく。
- ・3月14日、第2回図書館運営協議会を行う。
- ・3月15日、旧岩崎家末廣別邸についての歴史講座を行う。

8 その他

教育長 ジョイントスクール構想について質問があればお願いします。
(特になし)

9 委員長閉会宣言

武井委員長 以上で、平成25年度第12回富里市教育委員会定例会議を終了する。